

2019年2月25日

各位

会社名 株式会社 新生銀行
代表者名 代表取締役社長 工藤 英之
(コード番号 : 8303 東証第一部)

バイオベンチャー投資ファンドの設立および一次募集の完了について

新生銀行グループは、創薬やデジタルヘルス分野のベンチャー企業に対する投資と成長支援を行う「New Life Science 1号投資事業有限責任組合(以下、「本ファンド」)」を設立し、2019年2月7日に総額91億円にて一次募集(ファーストクローズ)を完了しました。

一次募集の主な出資者は、独立行政法人中小企業基盤整備機構(東京都港区、理事長 高田 坦史)、第一生命保険株式会社(東京都千代田区、代表取締役社長 稲垣 精二)、新生銀行のほか、機関投資家や事業法人、学校法人などで、今後も追加募集を行う予定です。

ライフサイエンス産業の構造変化に伴い、世界有数の科学技術力を持つ本邦アカデミアの研究成果の実用化が進むとともに、バイオベンチャーによる医薬品開発の重要性が高まる一方、ベンチャーエコシステムの整備が遅れているために十分に成長できていないバイオベンチャーが多く存在します。

本ファンドは、これらのベンチャーに資金とハンズオン支援を提供することによって、日本発の革新的な医薬品創出に貢献することを目指しています。また、テクノロジーを活用して高度医療介護を実現したり、医療費高騰や過疎地域の医療サービス低下などの社会問題の解決に貢献するデジタルヘルス分野のベンチャーに対しても、成長資金と積極的な支援を提供します。

本ファンドの業務執行は、新生キャピタルパートナーズ株式会社(以下、「SCP」)が行います。SCPは、約14年間にわたって新生銀行グループにおけるベンチャー投資を率いてきた中村学氏と新生銀行の連結子会社である新生企業投資株式会社の出資により、新生企業投資株式会社のライフサイエンス分野に対する投資業務をカーブアウトして設立されました。

SCPの投資チームは、中村氏と製薬会社出身者で構成されており、長年にわたる投資経験と幅広いネットワークや高度な知識を強みとして、ライフサイエンス分野のベンチャー企業の成長支援と健全な投資リターン確保を果たしていくことが期待されます。

新生銀行グループでは、これまでPre-IPO投資としてミドル・レイターステージのベンチャー企業に成長資金の提供を行うとともに、外部パートナーとの共同ファンドの設立を積極的に行ってきました。本件では、新生銀行グループ内で培ってきたライフサイエンス分野の投資業務をカーブアウトし、独立した意思決定のもとで外部投資家の資金を呼び込むことによって、アーリーステージも含めた同分野のベンチャー企業に対する投資をより拡大していくことを企図しています。また、今後も自己勘定投資やファンド組成によるリスクマネー提供などを通じて、新しい産業分野の育成に貢献していきます。

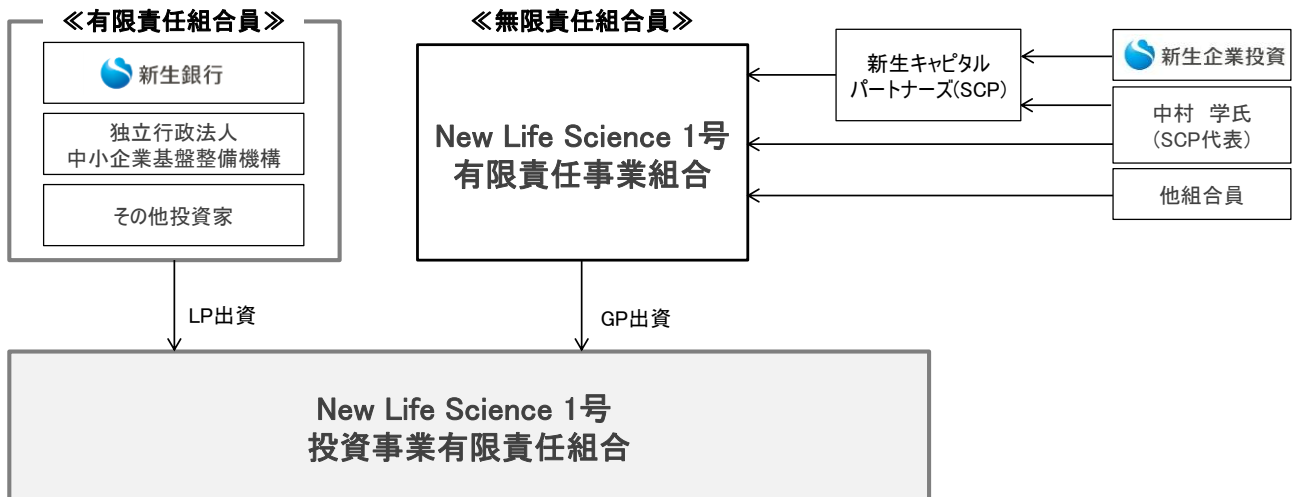
■ 本ファンドの概要

名称 : New Life Science 1号投資事業有限責任組合
設立 : 2019年2月7日
ファンド規模 : 91億円(ファーストクローズ時)
出資者 : 無限責任組合員(GP): New Life Science 1号有限責任事業組合
有限責任組合員(LP): 独立行政法人中小企業基盤整備機構、第一生命保険株式会社、株式会社南都銀行、ヤマサ醤油株式会社、株式会社新生銀行ほか
投資対象 : 創薬・デジタルヘルス分野のベンチャー企業

■ 新生キャピタルパートナーズ株式会社の概要

名称 : 新生キャピタルパートナーズ株式会社(<https://www.new-lifescience.com>)
代表者 : 中村 学
設立 : 2018年4月18日
資本金 : 900万円

【ファンドのスキーム図】



以上